

## 電解質検査

Na・K・Cl	血中に含まれる電解質で腎臓により濃度が一定に維持されています。脱水、下痢、腎機能障害時や利尿剤の服用などで異常値になることがあります。
カルシウム	<p>カルシウムは、生体内で最も多量に存在する無機物です。その 99%以上は骨や歯などに存在し、残りの 1%は細胞内に存在します。血清中のカルシウムはわずか 0.1%です。血清中のカルシウムは、約 1/2 が遊離したイオン化カルシウムとして、残りはアルブミンと結合しています。</p> <p>イオン化カルシウムは機能上重要で、血液凝固、酵素の活性化、筋収縮、神経刺激伝導系などに必須です。</p> <p>異常高値：原発性副甲状腺機能亢進症、悪性腫瘍、ビタミン D 中毒、サルコイドーシス、悪性腫瘍の骨転移、多発性骨髄腫、腎不全、甲状腺機能亢進症、褐色細胞腫、Addison 病</p> <p>異常低値：副甲状腺機能低下症、ビタミン D 欠乏症、アミロイドーシス、急性膵炎、敗血症</p>
無機リン	<p>リンは、生体中にカルシウムに次いで多く存在する無機物です。その 80～90%は骨に、約 15%が細胞内液に存在しますが、細胞外液には少なく約 0.1%といわれています。無機リンの血清・尿の測定は、関係する内分泌、骨代謝の異常を調べるためになされます。</p> <p>異常高値：腎不全、副甲状腺機能低下症、サルコイドーシス、悪性腫瘍の骨転移、ビタミン D 過剰、先端巨大症</p> <p>異常低値：副甲状腺機能亢進症、副甲状腺ホルモン産生腫瘍、ビタミン D 欠乏症、尿細管性アシドーシス</p>